

【委員会報告】

土木計画学ワンデーセミナー24

「交通安全対策のフロンティアー道路安全監査システムー」

INFRASTRUCTURE PLANNING ONE DAY SEMINAR 24th

ROAD SAFETY AUDIT SYSTEM : A FRONTIER OF ROAD TRAFFIC SAFETY MEASURE

土木計画学研究委員会

Standing Committee of Infrastructure Planning Study

1. はじめに

わが国の交通安全対策は多面的に行われているが、全国同一基準で実施中の事故多発地点対策や開発中のITS関連の安全への取組などは顕著なものといえる。

海外でも、同様の取組を展開している国は多く見られるが、事故削減目標を掲げ、施策と事故削減効果の関係に基づいた統合的交通安全計画で進めつつあるように見える。英国では、1991年に道路安全監査(road safety audit)と呼ばれる新しい制度を導入し、主要道路計画の設計案について事前に外部の安全の専門家の監査を受け、交通安全上の問題点があれば改善勧告を受けて、早い段階で改良し、より安全な道路づくりを目指している。この制度は欧米を中心に普及しつつあるが、わが国ではまだあまり知られていない。

平成9年に道路安全監査研究分科会(代表 西村 昂 大阪市大教授)が設けられ、その後、分科会は「交通事故分析とITSに関する研究小委員会」にも所属し、研究活動を行って来た。今回、道路安全監査システムの紹介とわが国の事情に適合した導入の考え方及び関連する課題への対応策について報告すると共にその他の交通安全の動きのいくつかを資料でも紹介した。

2. 内容

(1)開催日時、参加者数等

1) 東京会場

- 日時 平成13年2月1日(木)9:00 - 17:00
- 会場 中央大学駿河台記念館5F 520(150名)
- 参加者数 約65名, 参加費 3,000円
- テキスト 東京, 名古屋とも同じものを使用

2) 名古屋会場

- 開催日 平成13年2月8日(木)13:00 - 17:00

- 会場 名古屋都市センター・大研修室(100名)
- 参加者数 約70名, 参加費 2,000円
- 共催関係 (財)豊田都市交通研究所, (財)名古屋都市センターと共催

(2)プログラム

司会 斎藤和夫(室蘭工大)

開会挨拶 研究分科会代表 西村 昂(大阪市大)

I 新しい交通安全の課題

- ①道路管理者アンケートから見た交通安全対策の現状と課題 岩崎征人(武蔵工大)
- ②わが国の事故多発地点緊急対策事業の効果と課題 日野泰雄(大阪市大)
- ③道路利用者意識の交通安全への活用法 舟渡悦夫(大同工大)
- ④無信号交差点の安全評価 田中聖人(九州東海大)
- ⑤GISと交通安全研究 高井広行(近畿大)
- ⑥道路安全監査へのドライビング・シミュレータの利用 岩崎征人(武蔵工大)
- ⑦新しい道路設計用CADの性能, 安全性評価の可能性 三宅平八郎(東洋技研C)
- 昼食休憩

II 道路安全監査システムとは(外部評価システム)

- ⑧道路安全監査システムと普及状況 西村 昂(大阪市大)
- ⑨監査チームの資格, 養成方法とチェックリストの役割 高井広行(近畿大)
- ⑩英国の安全監査の実施状況(アンケート調査) 高井広行(近大)・奥村誠(広大)・今田寛典(呉大)
- ⑪道路安全監査システムを支える費用効果分析 鹿島茂(中央大)
- ⑫道路安全監査を支えるコンピュータシステム (Database, Software) 今田寛典(呉大学)

⑬わが国への導入の可能性と問題点

西村 昂 (大阪市大)

閉会挨拶 土木計画学研究委員会高田邦道副委員長
付 新しい交通安全の動向 (海外の資料紹介等 12 件)

名古屋のセミナー・プログラムは、上記の内

I「新しい交通安全の課題」として①③⑦及び名古屋のみのプログラムとして共催団体より、「地域に根ざした交通安全活動の事例報告 伊豆原 浩二・杉浦詔子(豊田都交研)」を追加、

II「道路安全監査システム(外部評価システム)」として⑧⑨⑩⑬で構成した。閉会挨拶は委員会の林良嗣副委員長にお願いした。なお、司会は岩崎征人(武蔵工大)が務めた。

参加者数は、分科会メンバーを加えて、東京が約 65 名、名古屋が約 70 名であった。質疑は、時間の制約から各会場とも2名にとどまった。2月は、大学は学年試験、入学試験の時期、参加者にとっても年度末の参加しにくい時期であり、定員に対して約半分の参加率であった。

3. 目的・主張・提言等

(1) 目的

今回のセミナー開催の目的は、

- 道路安全監査の内容・課題と普及状況の概要を知る
 - わが国の道路管理における安全対策の現状を考慮した導入の課題と段階的導入方法を考える
- の2点にまとめられる。

(2) 主張・提言の概要

初めに、わが国の安全対策検討の現状、道路管理者の現場における担当者の意識等の面から外部専門家の関与の実態、可能性を意識調査結果より取上げた。

次に安全監査の内容については、イギリスの制度を基本に紹介し、安全監査の方法、チェックリストの役割、監査者の資格・養成方法、監査に伴う法的問題、等について取上げた。イギリスの安全監査に関する関係者へのアンケート調査の結果については、道路側、監査側の双方の問題点、意識等を把握し、紹介した。

ITS と安全監査のかわりについては、既存道路の安全監査および ITS の効果を高める道路構造のあり方の視点より協調して対処すべきことを指摘した。

安全監査に対する支援システムについては、先ず費用便益分析、コンピュータシステム、ソフトウェア等につ

いては、アンケートよりイギリスで現に利用されているものを分類・整理し、安全監査導入時のみでなく、それ以前における一般的な事故防止対策においても整備充実が必要であることを述べた。GIS、ドライビング・シミュレータは、道路計画案の安全上の効果・問題点を建設工事着工以前、設計図の段階において把握する方法として、安全監査において利用できる段階に技術開発が進みつつあり、その課題を考察した。

各種事故分析、意識調査結果等の安全監査への利用では、無信号交差点の安全評価、交通事故統計モデル(DRAG モデル)の適用可能性、ドライバーに対する危険交差点等の意識調査結果、等の活用法について検討し、データベース、チェックリスト等への反映、安全対策の効果予測などの形で活用すべきことを述べた。

わが国への安全監査の導入についての検討では、現在全国的に同じ基準で進められている交通事故多発地点緊急対策事業の実施状況、あるいは一般の事故防止対策、外部評価システムの現状について考察し、さらに全国の道路管理者に対する意識調査結果から、いずれも導入の可能性があると考えられることから、事故防止対策案について外部の専門家による評価を受ける部分において、実験的に、あるいは試行的に導入することを提案した。そのような実績を全国的に積み重ねて、専門家の層を厚くしつつ、既存道路から制度化し、その後新設道路に導入するプロセスを提案した。新設道路から導入している欧米とは導入順序が逆となるが、わが国の現状からは抵抗感が少ない方法といえるのではないかと考えられる。

4. あとがき

平成 12 年 12 月に、建設省は通達で各都道府県の交通安全対策の検討委員会において広く外部関係者の意見を取り入れて対策案を検討するよう要請している。これは安全監査に一步近づくものといえ、このような仕組みの中で道路管理者が新しいシステムを模索することは意義あることであり、さらに効果ある方法を見出し、わが国に適した制度を構築することを目指すことが望まれる。

参考文献

土木計画学研究委員会編、2001、「交通安全対策のフロンティアー道路安全監査システムー」(土木計画学ワンデーセミナー・シリーズ 24/テキスト)、土木学会

(文責 大阪市立大学 西村 昂)